

愛知学院大学歯学部倫理委員会

平成 27 年度第 1 回会議 次第

平成 27 年 5 月 14 日（木） 15 : 00～

I. 報 告

1. 新委員の紹介
2. 平成 26 年度第 3 回倫理委員会議事録（案）（平成 27 年 2 月 5 日）
3. 教授会承認：規程の改正
規程改正に伴う、様式の変更について

II. 協 議

1. 申請書類審議（事前送付資料参照）
2. 申請者との面談
3. 判定結果の決定
4. その他

平成27年度愛知学院大学歯学部倫理委員会委員名簿

◎委員長 ○副委員長

	氏名	所属等	委員区分(選出母体)	任期
	本田 雅規	口腔解剖学講座教授	規程第4条(1)基礎系講座専任教員	27.4.1-29.3.31
	池田 やよい	解剖学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
	戸 莉 彰 史	薬理学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
○	前田 初彦	口腔病理学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
◎	千田 彰	保存修復学講座教授	規程第4条(2)臨床系講座専任教員	26.4.1-28.3.31
	武部 純	有床義歯学講座教授	〃	27.4.1-29.3.31
	原田 純	麻酔学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
	松原 達昭	内科学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
	高木 敬一	愛知学院大学法学部教授	規程第4条(3)学識経験者	27.4.1-29.3.31
	黒神 聰	元愛知学院大学法学部教授	〃	27.4.1-29.3.31
	柿田 憲広	金城学院大学非常勤講師	規程第4条(4)一般人	27.4.1-29.3.31
	鏡山 典子	愛知教育大学人事労務課長	〃	27.4.1-29.3.31

平成27年度 第1回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

1	実施責任者	三谷 章雄
	研究課題	尿・唾液中コチニンを指標とした女子大学生の喫煙や受動喫煙の実態と健康障害
	概要	<p>大学で喫煙を始めないための対策をたてる一助として、本学短期大学部女子学生を対象に、入学時に喫煙状況と受動喫煙の実態とその影響、社会的ニコチン依存度を質問票で調査し、禁煙教育・啓発を行う。次に、2日前からの受動喫煙の既往を質問票で確認した上で、尿および唾液中のニコチン濃度を指標として、受動喫煙の有無を判定する。本研究では、受動喫煙に起因する歯肉メラニン色素沈着とその他の関連疾患である気管支喘息などの呼吸器疾患、中耳疾患、胎児期の発育異常、心疾患、喘息、中耳炎などとの関係についても検討する。さらに、2年生時、3年生時に、禁煙教育と質問票調査を繰り返し、喫煙状況や受動喫煙の実態、社会的ニコチン依存度を継続的に評価し、喫煙し始めないように追跡していく。なお、喫煙に対する認知の歪みの客観的な評価には、心理的ニコチン依存度を評価する加濃式社会的ニコチン依存度質問票(The Kano Test for Social Nicotine Dependence, KTSND)を用いる。なお、本研究で適用するKTSNDは、喫煙者・非喫煙者の心理的依存(社会的な刷り込みなどによる誤った認識)を評価する質問票である。</p>
2	実施責任者	稲本 京子
	研究課題	愛知学院大学歯学部附属病院歯内治療科の初診紹介患者に関する実態調査
	概要	<p>愛知学院大学歯学部附属病院は、臨床歯科医学の教育研究機関であると共に、高度な歯科医療を実施できる医療機関として、中部地区の歯科医療の中心的役割を果たしている。そのため、外部の医療機関から専門的な診査・診断や治療の依頼も多く、病院全体の初診患者のうち紹介率は毎月約3割を占めている現状である。</p> <p>歯内治療科においても、難治症例や全身疾患等の理由のため、個人の歯科医院や病院では対応困難な患者が、紹介により多数来院されている。また近年では歯科用コンピームCTやマイクロスコープ等の特別な機器を使用しての診査・診断の依頼も増加している。しかし、これまで歯内治療科宛てに紹介された患者に関して、その疾患の傾向や紹介状の記載内容、その後の動向についての調査・分析は十分に行われていない。</p> <p>そこで、本研究では、外部の医療機関から歯内治療科宛ての紹介状を有する初診患者を対象に、医療情報の調査・分析を行う。そして、紹介患者に対する歯内治療科の対応や大学病院としての役割を明らかにし、地域歯科医療機関との今後の医療連携体制について考察する。</p>
3	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
4	実施責任者	水野 辰哉
	研究課題	ポリプロピレンを用いたノンメタルクラスプデンチャー装着患者に対する満足度調査
	概要	<p>ポリプロピレンを用いたノンメタルクラスプデンチャー装着患者に対し、VAS法を用いたアンケートを行います。</p> <p>ノンメタルクラスプデンチャーの臨床症例や理工学的性質についての研究報告はありますが、患者側にとっての報告は無く、指標になると考えています。</p>
5	実施責任者	水野 辰哉
	研究課題	全部床義歯装着高齢者の咬合力と生活活動能力に対するアンケート調査
	概要	<p>全部床義歯装着者の咬合力を測定し、摂取可能な食品のアンケート調査との関係についての研究はあります。</p> <p>しかし、今回我々は高齢者(65歳以上)に限定し、全部床義歯を装着した患者の、咬合力を測定し、かめる食品との関係の調査について研究を行いたいと考えております。</p> <p>また、老研式活動能力指標を用いて、咬合力と生活機能の自律性の評価も行いたいと考えております。</p>
6	実施責任者	嶋崎 義浩
	研究課題	健常高齢者の口腔および栄養状態が全身の健康に及ぼす影響についての調査
	概要	公表不可
	実施責任者	服部 正巳
	研究課題	Rapid Prototyping技術を応用した教育用模型歯の開発に関する研究

平成27年度 第1回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

7	概要	<p>補綴治療において理想的な支台歯形態を理解し、イメージすることは適切な切削を行う上で必須である。また模型歯は実習において歯の形態を立体的にイメージするために有用であり、冠橋義歯学をはじめ様々な実習で活用されている。しかし今日まで歯髓腔を再現し、理想的な支台歯形態を付与した模型歯を効率よく作製することは困難であった。</p> <p>一方、Rapid Prototypingでは積層造形法と呼ばれる製造手法が用いられる。積層造形法の1つである光造形方式は紫外線を照射することで硬化する液体樹脂を用いた造形法である。面一括露光により造形する手法はワークエリア内に複数の造形物を一度に作製することが可能であり、効率的なRapid Prototyping Technology(RPT)である。本研究では補綴治療を想定して支台歯形成を施した天然歯をマイクロCT SMX-225CT(島津製作所)にて撮影後、面露光式光造形方式のRPTを応用して模型歯の試作を行う。対象とする試料は口腔解剖学講座に所蔵の日本人「抜去歯(前歯および臼歯)」である。また本模型歯の実習教材としての有効性を検討するため本学歯学部学生および歯科医師を対象にアンケートを行う。</p>
8	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
9	実施責任者	名和 弘幸
	研究課題	レット症候群患者の口腔機能障害の把握と歯科医療支援
	概要	公表不可
10	実施責任者	上野 温子
	研究課題	電子ビーム3次元造形機を利用したチタン製の金属床の臨床評価
	概要	公表不可
11	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可

平成27年度第1回歯学部倫理委員会議事録

日 時：平成27年5月14日（木） 15時00分

場 所：歯学部基礎教育研究棟 第1会議室

出席者：千田、本田、池田、武部、高木、黒神、柿田、鏡山

欠席者：前田、戸苅、原田、松原

開 会：15時00分

報 告

- 新委員の紹介

平成27年度より新しく委員に就任された新委員の方々の紹介があった。

副委員長は、前田委員が継続する旨、報告があった。

- 平成26年度第3回倫理委員会記録について

委員長から、資料により報告があり、原案どおりこれを了承した。

- 規程改正について

委員長から、「愛知学院大学歯学部倫理委員会規程」の一部改正について、歯学部教授会承認、学内理事会決裁にて承認された旨、報告があった。

議 題

1. 倫理審査について

委員長から提議され、今回12題の申請があり、うち1題については委員長決裁にて承認された。

11題については、それぞれについて実施責任者または分担者から研究概要の説明を受け判定したい旨述べられ、これを承認した。

11題のうち承認4件、修正の上承認2件、条件付承認2件、不承認3件とした。

閉 会：19時45分